

認知症施策総合対策推進事業 令和7年度実施状況及び令和8年度 実施予定について



栃木県認知症施策の体系

1

- 認知症に関する理解の促進と
本人・家族への支援

2

- 認知症の早期発見・早期診断及び
早期対応に向けた体制の構築

3

- 認知症対応力の向上

4

- 若年性認知症への対応

1. 認知症に関する理解の促進と本人・家族への支援

① 認知症電話・来所相談の実施

認知症の人とその家族が抱える、認知症の症状への対応や今後の生活に関する心配事等を、介護支援専門員や看護師等の有資格者による相談対応を行った。ケースにより、地域包括支援センターや認知症疾患医療センターにつないでいる。

〔委託先〕(公社)認知症の人と家族の会栃木県支部

電話相談：毎週月～金 13:30～16:00 R7上半期実績：71件（R6年間106件）

来所相談：毎月第4水曜日 13:30～16:00 R7上半期実績：49名（R6年間 97件）

② 認知症サポーター養成講座等の開催

R7. 12月末現在：県内新規サポーター数…21,820名（累計287,111名）

③ 若年性認知症支援事業

若年性認知症の一人ひとりの状態やその変化に応じた適切な支援を行う相談体制を構築

① 若年性認知症支援コーディネーターの配置

（NPO法人福聚会 ソーシャルワーク事務所そえしあ 松本 佑司 氏）

② 電話相談 毎週土曜日13:30～16:00

その他、

市町職員向け研修（2/24実施 産業保健総合支援センター保健師による講話、松本コーディネーターによる研修等）

若年性支援認知症ネットワーク会議の開催

2. 認知症の早期発見・早期治療に向けた体制の構築

① 認知症疾患医療センターの設置・運営

県内10箇所の病院に認知症疾患医療センターを設置し、専門医療相談、鑑別診断、研修会開催等の業務を委託により実施。

(センター医師の声)

・アミロイドβ抗体薬の登場により、軽度認知障害等、早期段階での発見、治療の選択肢を示すことの重要性が高まった。

→ (R7年度の対応) 「新しい認知症観」に関する講演会や、新聞広告において、早期発見・診断の重要性について普及啓発を行った。

② 認知症サポート医養成研修事業の実施

認知症の診療に習熟し、かかりつけ医等への助言その他の支援を行い、専門医療機関や地域包括支援センター等との連携の推進役となるサポート医を養成

R7実績：18名

③ 認知症医療連携体制の構築

〔委託先〕(一社) 栃木県医師会



◆もの忘れ・認知症相談医登録事業

身近な医療機関で気軽に相談できる「もの忘れ・認知症相談医 (とちぎオレンジドクター)」の登録・周知
〔登録要件〕認知症サポート医 等 (R7実績：15名見込)

◆オレンジドクター向け研修会の開催

研修内容 アミロイドβ抗体薬の投与その他、認知症疾患医療センターにおける診療の実績や状況の共有
R7実績：参加者 131名 (1回目宇都宮市内にて対面開催、2回目対面・オンライン)

3. 認知症対応力の向上

(1) 認知症対応力向上研修 修了者数

・認知症の人が利用する病院の医療従事者(理学療法士・作業療法士・放射線技師等を含む)や医療関係者に対し、認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性等を習得するための研修を実施

・研修内容の一例

医師より認知症の医学的知識等

地域包括ケアシステム

多職種連携

医療機関（入院中、歯科医院、薬局の窓口等）における、認知症の方への適切な声かけ、対応方法

対象者	R 7 修了
かかりつけ医	141名
歯科医師	29名
薬剤師	116名
看護職員	69名
病院勤務従事者 (例 病院で勤務する看護師等)	216名
病院勤務以外従事者 (例：診療所、介護施設等で勤務する看護師等)	192名

3. 認知症対応力の向上

(2) 認知症介護研修 修了（見込み）者数

認知症介護施設・事業所等に従事する介護職員等に対し、認知症高齢者への介護サービスの向上を図るため、体系的に認知症高齢者への介護サービスの向上を目指す。

研修の一例	R 7 修了
認知症介護基礎研修	940名
実践者研修	161名
実践リーダー研修	81名
認知症対応型サービス事業管理者研修	27名
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	21名
認知症対応型サービス事業開設者研修	6名

4. 認知症に関する情報発信について

1 講演会

「新しい認知症観とは～希望を持って暮らせる社会を目指して～」

講師：獨協医科大学病院認知症疾患医療センター副センター長
渡邊 由佳 氏

日程：R7.9.20 開催

会場：ライトキューブ宇都宮
申込者数 124名



2 講演会

「とちぎ“耳の日”講演会 きこえのトラブルと解決法」

講師：自治医科大学耳鼻咽喉科学教室 橋本 研 氏

日程：R8.3.1

会場：真岡市公民館 定員150名



3 研修会

「認知症の人と“いまここ”を共に楽しむ～老いと演劇のワークショップ」

講師：俳優・介護福祉士 菅原直樹氏

日程：R8.3.24開催予定

会場：ライトキューブ宇都宮 定員30名

※ 1, 2は下野新聞への広告掲載
2, 3の講演会は県公式X
(旧Twitter) にて広報を行った

9月
下野新聞掲載



9月
RUN伴
県庁15階展示



4. 認知症に関する情報発信について

R7.9.21

下野新聞 全面広告掲載

- ・認知症のサイン
- ・医療機関
- ・地域包括支援センター
- ・認知症地域支援推進員
- ・早期発見、早期治療
(アルツハイマー病の新しい治療薬)

認知症のサインを見逃さず、 早期に正しく対応しましょう。

65歳以上の方の3～4人に1人が認知症又はその予備軍と言われており、認知症は私たちにとってより身近な存在となっています。

早期に適切な治療を行うことで進行を遅らせることができる場合もあるため、早期発見・早期対応を心がけましょう。

認知症のサイン



医療機関

病気かどうか確認しよう。

■かかりつけ医、専門の医療機関 (精神科、神経内科等)

まずは、かかりつけ医や近くの専門医療機関に相談を。



■とちぎオレンジドクター

もの忘れや認知症の相談ができる医師として、県が認定した医師です。
4市町村の認知症対応型診療所（認知症対応型診療所）に配置されています。

■認知症疾患医療センター

都道府県指定の認知症疾患に関する病院。認知症の有無や原因疾患等を見極めるための診療、専門医療相談などを行います。

生活サポート

これからの生活を相談しよう。

■地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で、安心してそのらしい生活を継続することができるようにするには、介護サービスをはじめ、さまざまなサービスが高齢者のニーズや状態の変化に応じて、切れ目なく提供される必要があります。

こうした高齢者の生活を支える役割を果たす総合機関として、平成18年4月より、各市町に地域包括支援センターが設置されています。

地域包括支援センターには、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員などの専門職が配置され、これらの専門職が連携し、それぞれの専門性を活かしながらチームで業務を行っています。

■認知症地域支援推進員

認知症の方や家族から相談を受け、必要に応じて、医療・介護サービスの関係機関につなぐ支援などを行っています。主に各市町の地域包括支援センターに配置されています。



早期であれば薬が有効となる場合があります。

■アルツハイマー病の新しい治療薬

認知症の大半を占めるアルツハイマー病の原因に働きかけて病気の進行自体を抑制する薬として国内で初めて承認された薬が抗アミロイドβ抗体薬です。

現在、国内において2種類の製剤（レカネマブ（製品名レケンビ）、ドナネマブ（製品名ケサ

シラ）が承認されています。

この薬による治療については、アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）の方及びアルツハイマー病による認知症が軽度である時期の方が対象となります。



認知症抗体薬と早期発見・早期対応の重要性について
アルツハイマー病は、脳にアミロイドたんぱくが蓄積し、認知機能が低下すると考えられており、血液検査やPET検査で蓄積を確認後、抗アミロイド抗体薬を定期的に点滴投与します。この治療により、認知機能低下の進行を遅やかにする効果が報告されています。早期発見、早期対応により、ご本人が治療の意義を理解し、自らの意思で取り組むことで、意思を尊重した治療が実現されます。現在、県内では11施設で導入されています。



5. R8年度 認知症総合対策事業費～主な事業

総額 52,756千円

- 1 認知症電話・来所相談事業 2,325千円
変更点：若年性認知症に関する相談 週1回→週5日
- 2 市町認知症支援サポート事業費【新規】 338千円
(公社) 認知症の人と家族の会への委託により、認知症に関する講座等の講師派遣
市町の認知症関連事業に対するアドバイザー派遣、認知症カフェ運営支援等を行う
- 3 認知症の人と家族を支える広報事業【新規】 495千円
電話・来所相談等、認知症の人と家族を支える事業に関する広報資材の作成
- 4 とちぎまるっとオレンジプロジェクト事業費 3,306千円
新聞広告、リーフレット作成 (市町に配布)
- 5 認知症サポート医研修事業費 1,950千円
医師の受講者負担金と旅費を助成 R7:40名→R8:30名
- 6 認知症疾患医療センター 21,450千円
R7年度同様、県内10センターにて実施
- 7 認知症介護研修事業 6,190千円
R7年度同規模にて実施

認知症の本人、介護者の声を聞く取組

県認知症施策推進計画策定準備のため、認知症カフェ、介護施設等に職員が出向き、診断を受けた際の気持ちや、生活上の困り事など、認知症の本人の声を聞く取組を実施

本人

場所	対象者	声
家族の会主催 石蔵サロン	70代女性	・診断された後、色々な施設や認知症カフェを見学し、石蔵カフェの雰囲気が好きで、ここに落ち着いた。 ・これからも今と同じ生活を送りたい。
家族の会主催 石蔵サロン	70代女性	・石蔵カフェでは、詩など好きなこと、やりたいことができる。 ・先日、近所のおばあちゃんをおんぶして助けてあげた、自分でも役に立つことが嬉しい ・金澤さん（家族の会代表）に褒められると嬉しい、人生の先輩に出会えた。
栃木市 認知症カフェ	70代女性 元喫茶店 運営	（認知症カフェで支援スタッフと共に珈琲を入れている） ・喫茶店を営業していた頃は、楽しかった。お店を手伝ってもらって、とっても助かった。 今でも珈琲を出すことができて嬉しい。
壬生町 デイサービス	70代男性	・思うように言葉が出てこない（妻が代わりに話しをしていた） ・入浴が楽しみ、この施設は良いところ
栃木市 認知症カフェ	70代男性	・医師から認知症のことを学びたくて参加した。 一人暮らしのため、話し相手がいないため、会話ができるのもいい。 地域包括支援センターの担当の方を、頼っている。
家族の会主催 石蔵サロン	50代男性	・街中で、困っている人を見かけたら、皆が進んで声をかける世の中になってほしい。かつてよりも、今はそういう声かけが少なくなったと感じる。

聞き取り結果	施策につなげる
・今までと同じ生活を送りたい	・交流の場づくり、在宅生活が継続できるよう、家族を支援
・誰かの役に立ちたい、仕事をしたい	・就労支援、交流の場づくり、本人発信、認知症サポーター養成
・独居、将来の不安	・相談窓口の強化、個別支援、権利擁護

介護者

場所・所属	対象者	声
家族の会主催 石蔵サロン	70代認知症の女性の夫	<ul style="list-style-type: none">・料理等あまり家でしていなかったが、妻の代わりに始めた。しかし、代わりに私がやりすぎてしまうと、妻が、よりできなくなってしまう。・2年すぎると症状が進むと言われていたが、数年経過しても現状、このように活動できている。・これからも家族の会の力をお借りして過ごしていきたい。
壬生町 デイサービス	70代認知症の男性の妻	<ul style="list-style-type: none">・生活上の細かな疑問や困りごと、不安などを専門の方に気軽に相談をしたい。・一番大変なのはトイレの介助。外出時にもトイレの広い店舗を選んで出かけている。
栃木市 男性介護者の会	70代男性	<ul style="list-style-type: none">・在宅で長年、妻を介護してきたが、ケガをしたこともあり、そろそろ限界かと感じている。・初めは大きな声で認知症の妻に怒ってしまうことがあったが、最近は無くなってきた。ここで体験を共有できることがありがたい。・介護のために、仕事を辞めた。在宅で看ている母の死を意識してしまう。・トイレ、オムツの世話が大変、下の世話は男性は苦手である。・オムツの種類、介護の方法、介護用品など、アドバイスをもらえる機会があるといい。
鹿沼市 御殿山病院	70代認知症の女性の夫	<ul style="list-style-type: none">・在宅介護ができる目安、施設入所の検討を始めるチェックシートのようながあるといい。示して欲しい。・本人の認知症をオープンにすることについて抵抗はなかった。近所の人にも打ち明けており、見守ってもらっていた。みんなもっとオープンにした方がいい、話すことで楽になる。・介護者が集える場所は絶対に必要。もっと増えるといい。
鹿沼市 御殿山病院	看護師、介護士	<ul style="list-style-type: none">・専門職に対する本人の生の声を聞くことができる研修は良い。・人材確保をお願いしたい、スタッフが多ければ、より個人の希望に合わせ寄り添った支援ができる。・「住み慣れた家に帰りたい」という人が多い。老健では家族の介護力が十分でないと、退所が難しい。
塩谷町 認知症カフェ	支援スタッフ	<ul style="list-style-type: none">・買い物支援の有償ボランティアサービスを充実させてほしい（男性が女性の下着を買い物しづらいとの悩みを聞いて）

聞き取り結果	施策につなげる
・介護の疑問や、不安を相談したい	・相談窓口（地域包括支援センター、ケアマネ等）、介護教室の充実、介護に課する情報の発信
・認知症についてオープンにし、援助を受けたい	・認知症サポーター養成、交流の場づくり
・人材育成	・認知症の方への対応を学ぶ研修の実施



塩谷町 出張認知症カフェ



高根沢町 出張認知症カフェ



栃木市エポックカフェ



市内のカフェや支援者の協力を得て、月 1 回
珈琲を入れている